



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。

## 授業訪問シリーズ No.11

### 授業科目名：「メディア論I-メディアの特徴・歴史・現状・課題-」

授業担当教員：野原 仁(地域科学部)

メディア論Iは、担当教員の様々な工夫で毎年学生に人気のある授業です。

今年度もWeb履修申請で418名もの学生が受講を希望し、野原先生自ら4年生と1年生だけで150名に抽選されました。

さて、今回の授業訪問では、毎年受講希望者が多い理由を探るため、「Web履修申請に関するアンケート」を行いました。

その結果「なぜ、この科目を履修申請しようと思いましたか。」との質問には、大半の学生がWeb掲示板や先輩等からの情報を参考にして申請した、という回答が多かったようです。(回答者の6割ほど)

また、「この科目についてどのような情報がありましたか。」との質問には、「単位が取りやすい講義だった。」という情報が多かったのにはびっくりしました。

野原先生のシラバスでは、「授業のねらい」欄に次のように記載されていました。

「現代社会に生きる私たちにとってマスメディアから得る情報は、日常生活を送る上で必要不可欠なだけでなく、私たちの考え方や生き方にも大きな影響を与えている。したがって、マスメディアから得る情報の特質や傾向、さらには各メディアの特性や歴史などを正しく理解しなければ、自己を取り巻く社会環境の認識や自己形成に致命的なダメージを与えかねない。本講義では、現代社会でマスメディアが果たすべき機能と責任について、政治・経済および日常生活や人間形成との関係性の中で理論的に把握した上で、メディアの特徴・歴史・現状・課題と、あるべき姿について、具体的な事例をもとに実践的に学び、自分で問題点を探ることを目標とする。」また、シラバスの「受講者へのメッセージ」では、「学ぶ意欲がある人だけ出席して下さい。そうでない人は、課題をやることで、少しでもメディアに関する知識を身につけて下さいね。また、さまざまな決まり事がありますが、詳細は初回時に説明します。」とありましたので、どのように講義を進められるのか興味をもって授業訪問しましたが、今回の授業訪問が7回目と8回目ด้วย授業計画のちょうど中間の講義であり、メディアの歴史とマスメディアの現状と問題点についての授業が行なわれていました。

授業は、パワーポイントのスライドを中心に分かりやすく、いろいろな話題で学生たちを飽きさせない様に進められていました。しかし先生は、無駄口をしゃべって他人の受講を「妨害」する学生には厳しく、教室内から即座に退室させていました。

このように、学生達が集中力を切らさないように講義を進める野原先生の授業でした。

なお、オフィスアワーや連絡先の居室・電話番号・メールアドレスもはっきりとシラバスに記載されていますので、「質問等もしやすく、考えや人柄などが堅実で信用出来る」と学生たちが考えるからこそ、毎年多くの履修希望者が出るのだな、とも感じたものでした。

(全学共通教育事務室・正村隆弘)

## ー「メディア論I」の講義について、野原先生が熱い思いを語りました。ー

この授業は全学的に「楽勝科目」と知られており、毎年多くの学生が履修申請をします。「楽勝科目」とされる理由は、私の推測では、①出席をとらない、②課題が簡単である、ことに尽きるのではないのでしょうか。私自身は、この授業が「楽勝科目」とされることについては、まったく気にしていません。もちろん、「学生の人気取りのために、わざと楽にしているんだろう」と思う人もいるでしょうが、別に学生から人気があっても、給料が上がるわけでもなく、そんなことはまったく考えていません。先に挙げた「楽勝科目」とされる2つの理由には、それぞれ私のこの授業に関するポリシーがあります。まず「出席をとらない」のは、大学での勉強は強制されてやるものではなく、あくまで自主的・自律的に行うのが原則だと私が考えるからです。つぎに、「課題が簡単である」ことですが、高校までの学習ではメディアに関することはほとんど習っていないため、この授業では内容もそうですが、課題に関しても、メディア論の初歩中の初歩といったものにせざるを得ないからです。

ただし、あえて言えば、学生の人気取りのためではありませんが、意図的に、出席をとらず、課題も簡単にしている側面は否定できないかも知れません。それは、授業を通して自分が伝えたいことを、できるだけ多くの学生に伝えたいからです。つまり、自分が研究しているメディアに関するさまざまな知識を、一人でもたくさんの学生に身につけてもらうとともに、その知識をこれからの人生の糧にしたいと思います。

そのために、授業で用いたパワーポイントのスライドや配布した資料は、すべて私のHPに掲載して、たとえ出席はしなくとも、自分で学ぶことができるようにしていますし、最終課題については、授業内容をすべて復習しないと、解答できないものになっています。現実には「楽勝科目」ではないのです。

もちろん、履修登録をしたすべての学生に出席してもらい、直に私の生の姿に接してほしいと願っているのは言うまでもありません。また、そうなるよう、私自身も授業内容をよりよいものにするための努力を怠らないように肝に銘じたいと考えていますし、出席や課題を含めて、どのように授業を行うのかもっとも望ましいのか、これからも模索していきたいと思います。

最後に、このメディア論Iに限らず、私の担当する授業に共通するルールを紹介したいと思います。それは、「授業に出席して学ぶ権利をすべての学生が持っており、他の学生の学ぶ権利を侵害する、私語などの行為は決して認められない」というものです。いつも授業中におしゃべりしている学生の皆さん、あなたは勉強したい他の学生の権利を侵害しているのですよ。そのことに早く気づいてくださいね。

## 「何でも相談室」学生相談員として

地域科学部 4年 川村 詩織

今年度の「何でも相談室」の学生相談員の1人である、地域科学部4年川村詩織です。学生相談員とは、新入生を対象に、全学共通教育科目の履修の仕方や、サークルの口コミ、アルバイトの情報などといった学生生活にプラスになる情報を各学部の先輩に聞くことができる場です。

大学生になると、大学内での行動も授業のとり方も自分次第になるため、戸惑うことが多くあると思います。そのため、このような「何でも相談室」という何でも聞くことができる機会があることは、学生にとってありがたいことであると思います。

私は今年初めて相談員になったため、うまく答えられるか、他学部の学生相談員の人としっかり交流できるのかとても不安でした。しかし他学部の相談員の人は本当にいい人達で、話しやすい人達であると感じました。他学部の相談員の方と会話することも相談室にいるときの楽しみでした。

実際に学生相談員として活動し感じたことは、この「何でも相談室」がうまく機能していないところだと思います。私が新入生の話を聞いたのは、学部ごとのガイダンス時のみでした。

「何でも相談室」はまだまだ改善の余地は多くあると思います。私が感じた改善点は、相談室が開いている時間です。相談室が開いているのは、月曜と火曜が16時から18時、水曜が13時から17時です。相談員の負担は増えてしまいますが、昼休みにも相談室を開くことができたらいいのではないかと思います。

改善点があるにせよ、この「何でも相談室」は学生には必要な場であると思います。改善点を見つけ出し、相談室の質の向上を目指すことで、より新入生などの多くの学生に優しい場になればいいと思います。

## ようこそ!学習支援室へ!!

教育学部 2年 安田 千夏

皆さん、こんにちは。はじめまして!私は今年から学習支援室での学生相談員をしています。実は、恥ずかしながら、私はこの相談員という存在を自ら引き受けることで知りました。新入生のときに知っていたらもっと活用できたのに・・・と後悔しています。そのため新入生の皆さんには是非利用していただきたいです。

学習支援室のメリットとして私が皆さんに一つ言えることは、実際に自分が経験してきた成功談あるいは失敗談からアドバイスをあげられるんじゃないかなあと思います。やはり大学というところは高校までとは違い複雑な履修や単位を自己管理しなくてはなりません。私も当時これはとても苦労しました。これで必要単位は足りているのかどうか?どの授業を履修すればいいのか?そんな時、実際に経験してきた先輩方にお話が聞けたらどんなによかったらと思うました。友達同士では皆さん初めてのことなのでなかなか解決できない部分があるかと思います。そこでこの学習支援室を是非利用していただきたいです。私は、今回この相談員を引き受けるにあたって、少しでもそんな新入生の方々のお悩みや心配事を解消する手助けができればなあと思いました。

更にこの学習支援室は履修や単位などのことだけではなく、大学生活におけるいろんな「お悩み」も解決できるような手助けもしていくつもりです。私は他の相談員の方と一緒にお仕事させてもらうことによって学部・学年問わずいろいろな方とお話する機会が増えたのでとても嬉しいです。新入生の皆さんもコミュニケーションの場としてこの学習支援室を利用してくださるのもいいと思います。

せっかく大学に入学したからには充実した大学生活を送れるように、私たちも全力でサポートします!気軽に相談室に足を運んでみてください!!お待ちしています!!!

## 編集後記

「アンゲリア第12号」をお届けします。暇を見てお読みいただければ幸いです。今回は興味深い記事が載りました。一つは、あえて極端な表現をとられたのですが、授業訪問で紹介された野原先生の言葉です。「大学での勉強は強制されてやるものではなく…自主的・自律的に行う」ものだという指摘です。もう一つは学生相談員の村橋さんの言葉で、「全学共通教育の魅力的な点は『自由』に履修するところにあるという部分です。一昔前の学生たちと違って、ここ数十年間は、授業に(だけは?)真面目に(?)出席する学生が多いことに気づいていました。教員サイドも、シラバス内容を明確にし授業計画や学習目的の明示に努めてきました。しかし、大学は授業やカリキュラムといった「製造工程」を基にした教育「工場」ではありません。学生たちは「付加価値を付けた商品」として社会に出される「人(的)材(料)」でもありません。大学は学生・教員双方の自主的・自律的かつ自由な学究の時間・空間として、人間として必要な「知性」を涵養する場です。大学にとって最も基本的なことを考えさせる記事だったように思います。

編集責任:教養教育推進センター 副センター長 中川 一雄

## 『素晴らしきCAMPUS LIFE』

教育学部 2年 三浦 小百合

こんにちは。「なんでも相談室」相談員の三浦小百合です。皆さんは、どんな大学生活を送っていますか?毎日、充実していますか?

入学当初の私は今思うと、なんだか物足りない生活をしていました。大学は中学や高校と違って、近所の先輩もいなければ、いつも一緒に授業を受けるクラスもありません。また、部活やサークルに入っていないと同じ学部以外の人と知り合う機会もなく、そういった所属がないイベントに参加するきっかけもありません。高校の時と比べて宿題も少ないので、自主的に勉強していなかった私は学習機会を失っていました。

この1年で分かった事は、大学では自分で動かなくては何も始まらないということです。プラスに捉えると、自分が求める環境を自分の意思で創り出すことができる場所でした。さらに、人生の中で最も自由に時間を使えるのが大学生活だと気づいたのです。

現在、私の大学生活はたくさんのアドバイスや情報を得ることで、より充実してきたように思います。色々な学部・学科、幅広い年齢層、様々な国籍、自分と異なった価値観をもった人々との出会いは自分の視野を自然と広げました。おかげで今ほやほやしたいことが明確となったので、徐々にステップを踏んで具体的に動き出しています。

私事ばかり話してしまいましたが…、皆さんの素敵なCAMPUS LIFEのお手伝いができればと思い、後期履修申請期間も「なんでも相談室」相談員として、全棟1Fで待っています!!勉強のこと。サークルのこと。バイトのこと。車校のこと。雑談でも構いませんよー。「AIMS-Gifu」の掲示板やメールなどからも相談できるようになると、もっと気軽に「なんでも相談室」を利用できるかもしれませんね。これからも「なんでも相談室」が皆さんのお役に立てる場になることを願っています。

共に素敵なCAMPUS LIFEを過しましょう☆

## 全学共通教育の魅力

地域科学部 3年 村橋 里保

私が岐阜大学に入学したとき、履修について一番悩んだのは全学共通教育の科目でした。専門の科目は、取らなければいけない科目が決まっていたり、履修モデルがあったりと、自分で何を取るべきか考えたり、悩んだりすることはそんなにないでしょう。しかし、全学共通教育では、膨大な数の講義の中から、必要単位数を満たすように自分で考え、選ばなければなりません。新入生の皆さんも、シラバスの厚さに驚いたのではないのでしょうか?

私は、全学共通教育の科目を選ぶとき、シラバスを見て面白そうだと思う科目に○をつけて、そのページの角を折っていきました。すると、自分の折ったページの多さに驚きました。高校では教えてくれないような、岐阜の方言についての講義や、ギリシャ神話についての講義、生物の生態でも、鳥だけに特化した講義など、面白そうな講義がたくさんありました。そのときに気づいたのは、自分が理系の講義にも○をつけていたことです。私は今まで、理系が苦手、自分は文系の人間なんだと思っていましたが、実際、化学や宇宙についての講義を受けてみると、「おもしろい!」とか、「もっと知りたい!」と思うようになっていました。この、全学共通教育を通じて私は、理系科目の面白さを発見することができました。

このように、全学共通教育の魅力的な点は「自由」ということだと思えます。高校で、文系と理系に分けられて以来、「自分は理系だから文系は無理!」というように文系科目や理系科目に苦手意識を持っている人は多いと思います。しかし、人は理系と文系に分けられるほど単純なものではありません。文系でも、自然科学の講義を取らなければいけないし、理系も、人文科学の講義をとらなければいけません。どうせ取らなければいけないのなら、ちょっとでも面白そうだと思った講義を取ってみてください。きっと、今までの苦手意識を吹き飛ばしてくれるでしょう。